

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 大阪府 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |           |    |    |    |    |    |      |     |     |
|-----|-----------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 摂津市立柳田小学校 |    |    |    |    |    |      |     |     |
| 学年  | 1年        | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 養護学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3         | 3  | 2  | 3  | 3  | 3  | 1    | 18  | 27  |
| 児童数 | 82        | 88 | 78 | 89 | 94 | 90 | 6    | 527 |     |

研究の概要

1. 研究主題

|   |
|---|
| <p>子ども達の表現力を高め、共感性を育もう</p> <p>～主体的な学びと表現力を高める人権総合学習～</p> <p>～違いを認め、高め合う仲間作り～</p> <p>実感できる学力を創生し、学ぶ力を高めよう</p> <p>～一人ひとりが学びでつながる教科学習～</p> <p>～使える学力を高め合う授業作り～</p> |
|---|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>3～6年生・算数（全時間）<br/>児童一人ひとりの理解および習熟の程度に差が出やすい教科であり、児童の実態を見ても、個に応じた指導の必要性が最も高いため。<br/>5・6年生については、これまでも、少人数指導をおこなってきている。加配が3人になった今年度からは、つまづきの出始めてくる3・4年生にも枠を広げていくことにした。</li> <li>3～6年生・国語（週1時間）<br/>研究主題の表現力を国語科（必要に応じて、総合学習）を通して、高めていくため。</li> </ul> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成14年度 |  |
|--------|--|

平成  
15  
年度

## テーマ

自らを表現し、他者と共感し合うことを通して、課題に応じて知識を応用できる学力を育成し、その学力を児童自らが実感できる授業の研究

### 研究の見通し

- ・ 教科学習と人権総合学習とを有機的に関連させることによって、実感できる学力を身につけることができるのではないかと。
- ・ 一人ひとりを大切にしたい少人数指導（単元・学年（児童の実態）に応じた学習集団の効果的な分割指導）で、実感できる学力をつけ、学ぶ力が高まるのではないかと。
- ・ 算数的学習を積極的に取り入れることで、実感できる学力を創生できるのではないかと。

### 研究の内容

- \* 少人数指導を生かした効果的な学習スタイルの研究と実践
  - ・ 学ぶ喜び、意欲を高める授業作り
  - ・ 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫と改善
  - ・ 学習集団の効果的な分割方法の研究と実践
  - ・ 補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
  - ・ 基礎基本を確実に身につける授業の研究
  - ・ 学力診断テストの研究と実施
- \* 各教科で伸ばす力の研究
- \* 教科学習と人権総合学習の関連を深める研究
- \* 学習過程における評価を生かした指導方法の工夫と改善
- \* 「いきいきスクール」による国語科における小中連携

### 研究の方法

- \* 4委員会（人権総合委員会・学力向上委員会・人間関係づくり委員会・生活づくり委員会）が評価プロジェクトと連携し合い、4輪駆動でそれぞれの課題の研究を推進し、研究推進委員会が研究テーマの実現に向け、その舵取り役を担うという体制を取っている。少人数指導担当は学力向上委員会に属し、算数科を中心とした具体的な研究・実践を行う。
- \* 3名の少人数指導担当で、3～6年の算数の教材研究・指導計画・分割方法を立案し、各学年会で検討し、担任と協力しあい実践していく。
- \* 実践の経過については、学力向上委員会から、全職員に報告し、論議し、全体化するようにしていく。3、4年生については、公開授業を実施し、研究協議の場を通し深めていく。
- \* 各教科で伸ばす力については、各教科部会で、研究し、校内研で論議する。
- \* 評価プロジェクトと連携し、学習過程における評価を生かした指導方法の工夫と改善を研究する。具体的には、ふりかえりカードの有効な使い方を実践を通して考えていく。
- \* 6年生において、第三中学教員が表現力を高めるための、「話すこと・聞くこと」の指導を実施していく。
- \* 講師に大谷女子大学の西川信廣先生を招聘し、年間を通して指導をしていただく。

平成  
16  
年度

## テーマ

自らを表現し、他者と共感し合うことを通して、課題に応じて知識を応用できる学力を育成し、その学力を児童自らが実感できる授業の研究

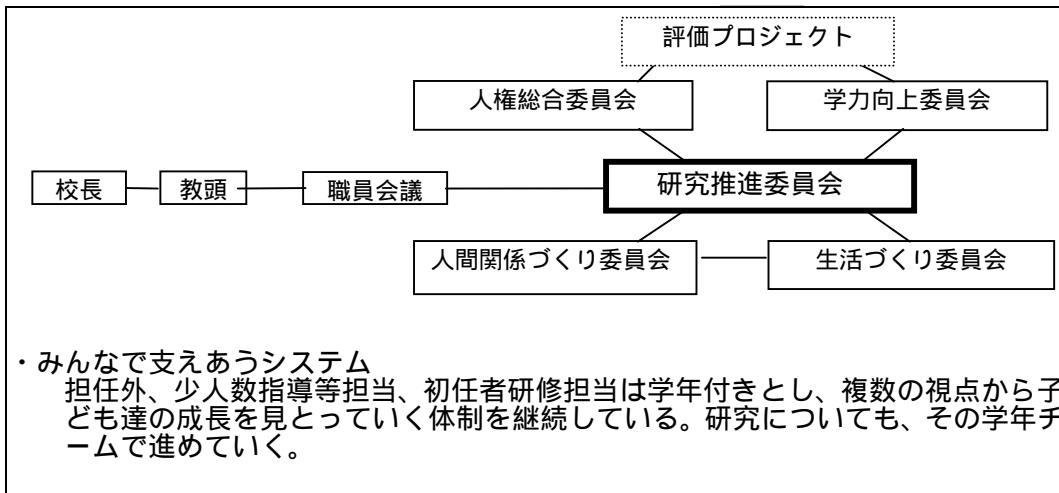
### 研究の見通し

- ・ 教科学習と人権総合学習とを有機的に関連させることによって、実感できる学力を身につけることができるのではないか。
- ・ 一人ひとりを大切にしたい少人数指導（単元・学年（児童の実態）に応じた学習集団の効果的な分割指導）で、実感できる学力をつけ、学ぶ力が高まるのではないか。
- ・ 算数的学習を積極的に取り入れることで、実感できる学力を創生できるのではないか。

### 研究の方法

- \* 4委員会（人権総合委員会・学力向上委員会・人間関係づくり委員会・生活づくり委員会）が評価プロジェクトと連携し合い、4輪駆動でそれぞれの課題の研究を推進し、研究推進委員会が研究テーマの実現に向け、その舵取り役を担うという体制を取っている。少人数指導担当は学力向上委員会に属し、算数科を中心とした具体的な研究・実践を行う。
- \* 3名の少人数指導担当で、3～6年の算数の教材研究・指導計画・分割方法を立案し、各学年会で検討し、担任と協力しあい実践していく。
- \* 実践の経過については、学力向上委員会から、全職員に報告し、論議し、全体化するようにしていく。今年度は5・6年生を重点指導学年とし、公開授業を実施し、研究協議の場を通し深めていく。
- \* 算数科の中身の研修を深め、算数科でつけていく力を明らかにし、授業に生かしていく。また、問題解決学習の研究も行い、教師の授業力を付けていきたい。
- \* 子どもたちが少人数指導の導入により、どう変わってきているのかを、ポイントになる子どものノート、学習への参加態度等を継続的に観察することにより、検証していく。
- \* 評価プロジェクトと連携し、学習過程における評価を生かした指導方法の工夫と改善を研究する。具体的には、ふりかえりカードの有効な使い方を実践を通して考えていく。
- \* 6年生において、第三中学教員が表現力を高めるための、「話すこと・聞くこと」の指導を国語科で実施していく。算数科についても、今年度は、第三中学の数学科と交流を持ち、小中連携を図っていく。
- \* 講師に大谷女子大学の西川信廣先生を招聘し、年間を通して指導をしていただく。

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

- \* 1学期末に実施したアンケート（児童・保護者）や、単元毎に、児童・保護者が書いている「ふりかえりカード」から、算数がすきになってきた児童、そして、自分の力がついてきたことを実感し、次の学習への意欲が高まってきている児童が増えてきていることがわかる。保護者からも、少人数指導に対する評価も高い。
- \* 学年（児童の実態）・単元に応じた分割の方法、指導計画の中での効果的な分割の時期について、試行錯誤を繰り返す中で、よりよい方法が取れるようになってきた。
- \* 児童も分割・学習・ふりかえりで、自己評価できるようになり、自己選択力がついてきた。
- \* 補足的学習については、児童の実態に応じ、全学年、全単元の復習も含めた、スモールステップのプリントを用意することができた。
- \* 算数的活動を積極的に取り入れることで、児童の意欲が高まる楽しい授業ができ、さらに、実生活でも使える学力につないでいく手ごたえを感じることもできた。
- \* ふりかえりカードを毎単元終了時に児童が書き、教師の一言を添えた後、家庭に持ち帰り、保護者にも一言記入してもらうということが定着していった。
- \* 各教科で伸ばす力が明らかになった。
- \* 学習スキル・聞く・話す・（教科学習と人権総合学習をともに保証する学ぶ力）を作成し、全学年で共通して指導できるようになった。

#### 2. 今後の課題

- \* 単なる分割による小規模授業ではなく、指導の個性化と学習の個性化を実現する少人数指導を実践していく。
- \* 自己学習力を高めていくための授業方法を研究していく。
- \* 分割したコースに応じた教材・指導方法を考えていく。
- \* 今年度実施した、発展的学習を検証し、児童の実態から本校としての発展的学習を作っていく。
- \* 「いきいきスクール」による国語科の小中連携を算数科に広げ、中学の数学科の教員と小中段差の克服を図っていくためのつながりを持っていく。

学力等把握のための学校としての取組

- \* 学力診断テスト
- ・学年当初に実施
  - ・結果を指導に生かしていく。
    - ・児童一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導に生かしていく。
    - ・本校全体としての習熟度の低い点を明らかにする。
    - ・基礎基本の定着度検証の資料にする。
    - ・学習集団の分割のための資料にする。
  - ・今年度は、計算領域について実施  
但し、他領域についても必要に応じ分割の前に、前学年や前単元の内容の確認テストを実施し、グループ選択 自己選択 の参考とした。
- \* 児童・保護者へのアンケート
- ・1学期末に実施した。
  - ・算数での少人数指導・習熟度別指導をどう受け止めてもらっているか、また、少人数指導を始めて、算数への意欲の向上は見られるかを調査し、研究の参考にする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 公開授業・研究協議（校内・摂津市内各小・中学校に案内）
- ・6月26日 4年算数 「1けたでわるわり算」
  - ・7月7日 6年人権総合学習 「ワッツ ピース！！」
  - ・7月10日 1年生活科 「新聞紙はまほうつかい」
  - ・10月16日 3年算数 「形」
  - ・11月12日 5年人権総合学習 「柳田・摂津のトリビアを探せ」
  - ・12月1日 2年生活科 「家族の人々思い、自分の位置」
- \* 教育講演会（PTA・市内各小・中学校の教職員・地域連絡協議会に案内）
- ・西川信廣先生を講師に招き「一人ひとりを大切にしたい授業をめざして」をテーマに
- \* 摂津市主催の「せつつ・スクール広場」「摂津市教育改革フォーラム2004」にて、本校の取組の報告
- \* 研究発表会（大阪府 大阪市を除く 各小中学校に案内）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】              6学級以下              7～12学級
- 13～18学級              19～24学級
- 25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導              T・Tによる指導
- 一部教科担任制              その他
- 【研究教科】               国語              社会               算数              理科
- 生活              音楽              図画工作              家庭
- 体育              その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有              無